

令和 2 年 7 月 10 日現在

機関番号：23501
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2016～2019
 課題番号：16K04080
 研究課題名（和文）インド都市部における若年貧困層の「就業力」育成と不平等に関する開発社会学的研究

研究課題名（英文）A Sociological Study of Building "Employability" among the Poor Youth and Inequality in Urban India

研究代表者
 佐藤 裕（Sato, Yutaka）
 都留文科大学・文学部・准教授

研究者番号：40534988
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はインド、アフマダーバード市を対象に、NGOによる若年層向け職業訓練の社会的影響を検証することを目的にした。報告者は低所得層のムスリムとヒन्दゥー居住区にて質的調査を実施した。知見は次のとおりである。第1に、低カーストの男性にとって教育・キャリア達成のシンボルである公務員としてではなく、民間企業への就職が子・親世代間の齟齬を生みだしている。第2に、ムスリム女性にとっては再生産役割や、家族と地域コミュニティに残存するパルダ規範が職業訓練と就職への足かせになっている。第3に、正規社員としての就職が若者の間でインフォーマル経済に従事する隣人や友人との文化的な差異化をもたらした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

途上国都市の研究はこれまで都市雑業層の就労やスラムのコミュニティ形成、貧困層の公共空間からの排除に関するものがほとんどであった。そのなかで本研究はこうした居住区から中等・高等教育そして職業訓練を受け、社会的上昇移動をはたす若年層の文化意識やジェンダー不平等に着目し、変動著しいインドの都市社会の構造と動態を質的調査をふまえて検証した点に特長がある。

途上国のなかでもインドは人口構成上「若い」社会でかつ膨大な貧困層を抱える。低所得層から中産階級への階層移動をめぐる社会的・文化的障壁、若者たちの階層帰属意識や就職・就労の過程を記録することは民間企業や開発援助にとっても多くの示唆を与えるだろう。

研究成果の概要（英文）：This project aimed at examining the impact of vocational training initiated by NGOs on the educated youth who live in low-income neighbourhoods in Ahmedabad, India. Drawing on fieldwork in both low-caste Hindu and Muslim neighbourhoods, it generated the following findings: firstly, male Hindu informants' choice of employment in the private sector conflicts with their parental expectations of obtaining a public sector job. Secondly, the observation of pardah (female seclusion) in the household and neighbourhood was the major stumbling block for Muslim women to participate in the vocational training programme. Thirdly, both male and female informants differentiated their jobs or career prospects from the occupations of their parents and peers in the neighbourhood who are mostly engaged in informal sector enterprises. Overall, these findings demonstrate that their aspirations to achieve the 'middle-class' status continued to face class, caste and gender barriers.

研究分野：社会学

キーワード：インド 都市貧困 階層移動 職業訓練 NGO ジェンダー不平等 文化資本 カースト

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

報告者はインド、グジャラート州アフマダーバード市当局が進めた住環境改善事業を背景に、女性 NGO が展開したコミュニティ開発に関する調査(1997年、2003~05年)と、同事業終了後のスラム住民による生存戦略に関する調査(2010~12年)を断続的に実施した。派生的な知見として、同市の経済成長にともない生活の改善がみられた一部住民による子どもへの将来投資と中産階級への憧憬を確認した。

とりわけ、こうしたスラム内部の階層構造の変化を受けて若年層の就業力支援に着手する政策や NGO の存在が明らかになった。グローバル経済への接合が深まるインド大都市圏における労働市場の変動を把握するには、スラム出身者ないしは居住者による社会的上昇や階層帰属意識の理解が欠かせないと判断し、本研究に着手するにいたった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、アフマダーバード市の低所得層と下層中産階級が集住する地区を対象に、同市に拠点をおく NGO、Saath (サート) が若年層に提供する職業訓練プログラムをめぐって顕在化する社会的な諸課題を検討することである。同プログラムには美容師養成コースと販売・接客管理コースが用意されており、インド都市部のサービス産業化に対応した内容になっている。具体的には次の論点を現地調査の課題として提示した。

第1に、女性のみを対象にした美容師養成コースが既存のジェンダー関係を再編したか否かについてである。同コースについての現地調査は、市内にあるアジア最大のムスリム・ゲッターでおこなった。同市は2002年に対ムスリム暴動が起きたのち、ムスリム居住区のゲッター化が深刻化すると同時に、労働市場のさらなる分節化が進んだ。もとよりインフォーマル部門に集中していたムスリム住民たちの社会的上昇の機会が狭まるなかで、女性隔離規範により女性の就労が制限され、世帯経済の改善に対する阻害要因になっている。そのため、本研究では彼女らの就労を阻害する文化規範と、職業訓練を通して女性が「家族/世帯」と「近隣」で発言権をどう高めたかに焦点をあてた。

第2に、男女双方を対象にした販売・接客コースをつうじて、参加者のあいだで階層上昇志向がどう高まり、文化資本の獲得を通して校友や隣人たちとの差異化がどう図られているかである。インドの都市中産階級に関する実証研究は一定の蓄積をみたが、客観的な指標による階層帰属の検証ではなく、「中産階級」をめぐる諸言説が各階層でどのように生成・消費されているかに重点がおかれている。本研究もこうした定性的な研究をふまえて、「中産階級」の消費面・行動面・倫理面を参加者たちがどうとらえ、みずからの階級アイデンティティをどう再定義しているかに焦点をあてた。

第3に、美容師養成と販売・接客を問わず、コース修了後のキャリア志向、就労の実態と労働倫理にどう影響したのかについてである。とりわけ、インフォーマル・セクターに従事してきた親世代との比較において、フォーマル・セクターでの就労が現実味を帯びている参加者たちとのキャリア意識をジェンダーとカーストの文脈でとらえることである。サービス経済化の特徴の1つに新自由主義的な勤労倫理の内面化が指摘されているが、それが階層上昇志向によってもたらされているのか、あるいは個人化された消費主義によってもたらされているのかを男女別に検証することをめざした。加えて、低カースト・ヒンドゥーのあいだでは伝統的にカーストの留保枠で公務員になることが評価されてきた一方で、こうした優遇策の適用外である民間企業に就職するという選択をめぐって親・子世代間の葛藤がどう生じているのかに焦点をあてた。

3. 研究の方法

本研究では Saath が運営する市内 8 か所の職業訓練センターのうち 3 か所にて質的調査を実施した。まず当事者参加型調査を実施し、各地区で各職業訓練コースの参加者を対象にした。うち、美容師養成コースのみが展開するムスリム集住地区ではグループ・インタビューを 1 件、美容師養成コースと販売・接客管理コースの双方が展開する 2 か所のヒンドゥー居住区ではコース別のグループ・インタビューを 1 件ずつ実施した。半構造化インタビューの焦点は、(1) 近隣での就業構造、(2) 開発によりもたらされる機会、(3) 貧困への転落/からの脱却、(4) 職業訓練参加をめぐる障壁、(5) 教育の価値とジェンダー、(6) 婚姻意識である。

つぎに、個別の深い聞き取りを職業訓練参加者(含ドロップアウト者)と修了者、そして講師陣たちにおこなった。対象者は講師陣を除いて各センターで 10 名前後である。半構造化インタビューの焦点は、(1) 職業訓練への参加動機と就労に対する家族・近隣の反応、(2) ファッションと身振りをめぐる審美性、(3) 職場やサービス提供をめぐる経験、(4) 労使関係、(5) 職業人および男性/女性としてのロールモデルである。

時間的制約により、本研究では当初予定していた質問紙調査の実施にはいたらなかった。これを補充するかたちで職業訓練プログラムの参加者すべてについて世帯の就労状況や収入、学歴を含むデータを Saath より入手するとともに、同 NGO が別立てで展開する、インフォーマル・セクター従事者たちの職能技術訓練プログラムへの参加者のデータも入手した。これらと比較することで、本研究の対象者たちの低所得居住地内の階層的位置を分析中である。

なお、現地調査では各コースの職業訓練を観察した。新型コロナウイルス感染症の影響により、本研究期間の終盤に予定していた渡印を断念せざるをえなくなり、職業訓練プログラム修了者

たちが就職した諸企業の人事担当者への個別インタビューは叶わなかった。

4. 研究成果

本研究の知見は次のとおりである。

第1に、家族/世帯ならびに近隣で機能するパルダ(女性隔離)規範と、女子職業訓練生の交渉である。美容師養成コースの修了生の多くは美容室等に就職をするのではなく、自宅の一角で美容施術を提供する「営業者」をめざす。外で就労しないことで婚前であれば貞節を、婚姻関係にあれば家庭での再生産役割をはたすことができるとみなされ、ジェンダー役割規範に抵触しないからである。自宅でフレキシブルな時間帯で提供される美容サービスは、地下経済での就労でもある。こうしたインフォーマルな生業によって営業にかかる初期費用を抑制でき、現金収入によって世帯内での発言力も高まる例が数件みられた。その一方で、世帯経済の極大化や子どもへの教育投資をにらんで夫や姑と交渉し、家族/世帯や近隣からの蔑視のなかで「働く」選択を合理化したケースも複数確認できた。

第2に、販売・接客管理コースへの参加をつうじて、参加者・修了者たちが「中産階級」にふさわしい話し方や身振りを身につけるとともに、ファッションを愛好するようになった。英語が教育言語である私立学校ではなく、現地語が教育言語の公立学校で教育を受けた彼/彼女らにとっては、インフォーマルな経済活動が主で過密な居住環境にある近隣の友人が準拠集団でありつづけた。それが新しく身につけた象徴的な価値体系をベースに、かつての「身近な他者」との差異化を図っていることが確認できた。とくに伝統的な衣服の着用を求める家族や隣人との価値観が衝突するなかで西洋風のファッションを求める女性にその傾向が顕著であった。これは近年のインドの都市政策や労働市場の動向が、中産階級の消費に牽引されるグローバル都市にふさわしい「開発」を志向していることにも重なる点である。

第3に、美容師養成コースへの参加はジェンダー規範のみならずカースト規範とも対峙することであった点である。ムスリムにあってもヒンドゥーのカースト階梯や穢れの観念から自由ではない。散髪をとまなう美容施術はその価値体系のもとでは「穢れ」であり、美容師になることの職業的スティグマは大きい。おなじく販売・接客業への就職も「穢れ」とまなう。米国型の職場内の人材配置と昇進の仕組みが「マクドナルド化」に体现されるごとくインドの民間企業に普及するなかで、新規参加者はトイレ清掃など、カースト内分業体系のもとで不可触民が担う業務もこなさねばならない。これは親世代にとって自分たちが当事者でありつづけたカースト差別を想起させるとともに、カーストの優遇策としての留保制度を用いて公務員になるというキャリア選択をしない子世代との葛藤を生んでいる。

以上の主たる知見のほかにも、貧困からの脱却を企図して、あるいは中産階級に準ずる消費パターンを維持するために民間企業での長時間労働を甘受するインフォーマントたちも見受けられた。いずれにせよ、これらが示唆する点はインドの大都市圏を中心にニューエコノミーが発展するなかで、中等教育ないしは高等教育を修了したレベルの若年層 大半が非英語話者であるが低所得層からなるスラムや下層中産階級の居住区で新たな就業そして社会的上昇の機会を獲得していることである。その一方で、こうした就労の機会を阻むジェンダーやカーストにもとづく差別を内面化する者も多く、フォーマルで正規の職であれ労働市場に参入することの文化的な制約が顕在化しているのもこの社会階層と世代に特徴的であるといえる。一方で、とくに美容師養成コースにあっては営業の内職といったかたちで美容施術を提供する女性も多く、インフォーマル・フォーマルの別を問わず貧困女性の労働市場への参加を推奨する世界銀行などの国際開発の政策立案者にとっては、Saathの試みは意図せざる結果を生みだしているともいえよう。

以上の知見は都市社会学、労働社会学、社会階層論における既存の分析枠組みを、途上国都市の動向をふまえて読み替えたところに意義が認められる。換言すれば、グローバル経済とその新自由主義的な規範に接合されるアフマダーバードの労働市場が、脱産業社会の文脈で展開した先進国発の枠組みを必要としているのかもしれない。一方で、多くの都市貧困層が担うインフォーマル経済や、貧困者の行為主体性を拘束する宗教・カースト・ジェンダーにねざす規範や階梯といったいびつな社会構造が残るインドでの本事例研究は、南アジア研究はもとより、国際開発論への貢献可能性も秘めている。本研究の成果の公表はいまだに当初目標の半数にも達していないが、報告者は鋭意、上記の知見を国内外に発信すべく論文を執筆中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 佐藤裕	4. 巻 43
2. 論文標題 インドにおける開発社会学の展開 周縁層からみた近代化と開発の再検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 上智大学社会学論集	6. 最初と最後の頁 33-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤裕	4. 巻 131
2. 論文標題 インドにおける貧困問題と支援の動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会福祉研究	6. 最初と最後の頁 110-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yutaka Sato	4. 巻 33
2. 論文標題 Coping with the threat of eviction: Commercialisation of slum development, marginalisation of NGOs and local power play in Ahmedabad	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 CUE Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤裕	4. 巻 38
2. 論文標題 都市再開発、スラム撤去と再定住の社会過程 インド、アフマダーバード市における「ジェントリフィケーション」の再検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本都市社会学会年報	6. 最初と最後の頁 47-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤裕	4. 巻 24(6)
2. 論文標題 途上国都市の発展にみる貧困女性の剥奪と「人間の安全保障」 インドの事例から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 46-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 佐藤裕
2. 発表標題 ムスリム若年層の就労支援をめぐるジェンダー規範 インド、アフマダーバード市におけるNGOの職業訓練を事例に
3. 学会等名 第29回国際開発学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yutaka Sato
2. 発表標題 Aspirations for social mobility beyond the urban divide: Experiences of low-income youths participating in vocational training in Ahmedabad
3. 学会等名 45th All-India Sociological Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Gulcin Erdi, Yildirim Senturk, Nicolas Pinet, Yutaka Sato, Bruno Cousin, Ebru Soytemel, Ophelie Veron, Goze Saner, Saniye Dedeoglu, Chantal Butchinsky, Dan R. Levy and Claudia B. Rodrigues	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 279 (37-62)
3. 書名 Identity, justice and resistance in the neoliberal city	

1. 著者名 玉野和志編 / 浅川達人・丸山真央・林浩一郎・齊藤麻人・佐藤裕・上野淳子・山口恵子・福田友子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 236 (146-160)
3. 書名 都市社会学を学ぶ人のために	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考